

山本助産院だより

2016. 1
236-0031
横浜市金沢区六浦 2-14-12
TEL 045-788-6601
http://yamamotojyosanin.com



お知らせ

◆藤田伸二医師による乳児健診が助産院地下であります。
1月14日(木)①13時～②14時～
15時から藤田先生を囲んでのQ&Aのコーナーがあります。
料金は3000円(横浜市補助券の対象です。)
予約は、助産院まで。お待ちしております!

* 詩子のつぶやき * vol.50

来年還暦を迎えます。
60歳以上の高齢者の数は・・・などとテレビで流れると、私も高齢者の仲間入りなのだと思わざるを得ません。
物忘れは多くなりましたが、まだまだ元気なので老人としての自覚に欠けているかもしれません。
知人から、心に響く詩を教えてくださいました。

手紙～親愛なる子どもたちへ～

原作 詠み人知らず 日本語訳 角 智織
年老いた私がある日 今までの私と違っていても
どうかそのままの私のことを理解して欲しい
私が服の上に食べ物をこぼしても 靴ひもを結び忘れても
あなたに色んなことを教えたように見守って欲しい
あなたと話するとき 同じ話を何度も繰り返しても
その結末をどうかさえずらずにうなづいて欲しい
あなたにせがまれて繰り返し読んで絵本のあたたかな結末は
いつも同じでも私の心を平和にしてくれた
悲しいことではないんだ 消え去ってゆくように見える私の
ころろへと励ましをまなざしを向けて欲しい
楽しいひと時に 私が思わず下着を濡らしてしまったり
お風呂に入るのを嫌がる時には思い出して欲しい
あなたを追い回し 何度も着替えさせたり 様々な理由をつけて
嫌がるあなたとお風呂に入った 懐かしい日のことを
悲しいことではないんだ 旅立ちの準備をしている私に
祝福の祈りを捧げて欲しい
いづれ歯も弱り 飲み込む事さえ出来なくなるかもしれない
足も衰えて立ち上がる事すらできなくなったなら
あなたが か弱い市で立ち上がろうと私に助けを求めたように
よろめく私に どうかあなたの手を握らせて欲しい
私の姿を見て悲しんだり 自分が無力だと思わないで欲しい
あなたを抱きしめる力がないのを知るのはつらい事だけど
私を理解して支えてくれる心だけを持っていて欲しい
きっとそれだけでそれだけで 私には勇気がわいてくるのです
あなたの人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように
私の人生の終わりに少しだけ付き添って欲しい
あなたが生まれてくれたことで私が受けた多くの喜びと
あなたに対する変わらぬ愛をもって笑顔で答えたい
私の子供たちへ
愛する子供たちへ

始まりの愛は、終わりの愛につながっていくのだと、この歌を詠んで思いました。
ご両親に感謝しつつ、愛するわが子を育てていきましょう。

◎親と子のつどいの広場 OPEN!◎

山本助産院地階ホールにて、横浜市補助事業
親と子のつどい広場「たんぽぽ」が開設されること
になりました。

2月8日(月)に OPEN、月・水・木 10:00～15:00
利用料 ひとりにつき 100円 で利用できます。

2月、3月は、通常年 1000円 または月 100円 か
かる登録料が、オープン期間につき無料です!
お友達を連れて、ぜひ遊びにいらしてください♪

～つどいの広場 オープニングセレモニー～

2月6日(土)10:00～12:00
広場オープンのお披露目として、
お餅つきを行います。
お餅はなくなり次第終了です。
お誘いあわせのうえ、どうぞ!



実習生の紹介

はじめまして。滋賀県で助産師をしています
永井と申します。実は7年前、私が助産師学生
の時にこちらで研修をさせて頂き、ご縁があ
って今回は助産師として研修しています。

先日、出産に立ち合わせて頂きました。夜中
のお産にも関わらず、ご家族全員で立ち会い、
赤ちゃんの誕生を喜び合う姿は見ていた私もと
ても温かい気持ちになりました。ご主人が「み
んなこうやって生まれてきたんだから、お母さん
を大事にしないとダメだぞ」と子どもたちに
話しているのを聞いて、私も親としてこんな風
にいのちのことを子どもに伝えていきたいと思
いました。

また朝までベッドの上で家族が川の字になっ
て休んでいる姿は、病院ではなかなか見ない光
景だったので微笑ましかったです。

今回の研修では助産師としての原点に戻り、
沢山の学びを得ることができました。ありが
とございました。

大津市民病院 永井彩乃

リレー随筆～ママたちの文化祭 2015 スタッフより

確水かほ梨

小学2年生の息子と年長の娘、
1才の息子がいます。

先日とても素敵な詩との出会いがあったので、是非みな
さんにも読んでいただきたいと思ひます。

『抱きなさい 子を』

抱きしめなさい
子を
育児書を閉じ
子育てセミナーを欠席し

抱きしめなさい
子を
誰にも遠慮せず
あなたの子を
しっかりと
抱きしめなさい

抱きしめなさい
子を
母の膝が
子どもの怒いの
すべてを除く
その時代に

いつか母の膝は
この悲しみに近づけない
日がやって来る

やがて母の手が
子の涙を拭いてやれない
日が訪れる

きっと来る その日
子が涙を拭う手に
柔らかな記憶の手が重なるように
痛む子の心が
温かな思い出の膝に包まれるように

母よ
抱きしめなさい
子を
もう何もしてやれない日のために
抱きしめる手が
子の未来に届くよう
幾度も 幾度も
抱きしめなさい

母たちよ
やがて別れる者として
あなたの子を
しっかりと胸に
抱きなさい

この詩がみなさんの心に届き
ますように(へへ)



作:浜文子
著書:お母さんと呼ばれる
あなたへ